

# あいのわ

■発行者 社会福祉法人あいのわ福祉会  
理事長 鈴島 妙子

■連絡先  
〒121-0012 東京都足立区青井4丁目30番5号  
TEL:03-3849-1188 FAX:03-3849-7001  
URL <http://www.ainowa.or.jp/>

■印刷・作成  
足立区大谷田就労支援センター

足立あかしあ園 綾瀬あかしあ園 神明障がい福祉施設 足立区大谷田障がい福祉施設 竹の塚あかしあ園 あいのわ支援センター あいのわ相談センター

## 後援会総会

社会福祉法人 あいのわ福祉会



後援会総会

## 後援会総会

社会福祉法人 あいのわ福祉会



記念講演



足立あかしあ園通所バス  
地区割り説明会

### 平成26年度 第2回 評議員会・理事会報告

第2回評議員会 9月9日午前10時より  
第2回理事会 9月9日午前11時より

#### 報告事項

- ①ケアホーム「オハナ」の閉鎖について
- ②西保木間の旧・デイサービスセンターの建物賃借について
- ③H27/4月からの「通所バス地区割り制度」について

#### 議案

- 第1号議案 諸規程の改正について
- ①経理規程（・勘定科目表）の全面改正
- ②経理規程細則の全面改正
- ③介護休業及び介護短時間勤務に関する規則改正
- ④育児休業及び育児短時間勤務に関する規則改正
- 理事会追加議案

平成26年度、第2回目の評議員会・理事会が開催されました。

各報告事項の了承と、第1号議案、諸規程改正につきまして熱心な審議をして頂き、原案通り承認されました。

平成27年度「通所バス地区割り制度」について

足立区からの要請を受け、法人と致しましても実施目的①災害時の安心・安全の向上②バス乗車時間短縮による利便性の向上・負担軽減③舎人あかしあ園の開設に伴う適正地域通所の趣旨に賛同し利用者さん・保護者の皆様に説明会を開催してまいりました。

通いながれた施設からの移動者も多く、皆様には大変ご心配をおかけしておりますが、皆様のご懸念をプラスに変えるべく、法人の生活介護事業部会を中心に各施設の運営の見直し、サービス内容の向上・均一化のための討議を重ねております。

皆様には、これからもどうぞご理解ご指導の程宜しくお願い申し上げます。（尚、生活介護事業部会の計画は、2面をご覧ください）

## バス地区割り制度の導入について

平成 27 年 2 月末竣工の（仮称）舎人あかしあ園は 4 月に開設されます。待望の足立区西地域への開設にあたり、足立区より足立あかしあ園、綾瀬あかしあ園、竹の塚あかしあ園のぞみ、新設の舎人あかしあ園について『バスの地区割り制度』の導入について提案がありました。

①災害時の安全・安心の向上 ②バス乗車時間の短縮  
③バス運行事業の効率化を図ることを目的とした内容でした。

利用者・家族の皆様には 6 月に制度の内容説明が行われ、平成 27 年 4 月より実施すること。また 7 月下旬には各利用者の皆様に移動先が文書で送付されることが伝えられました。8 月には、バス地区割り確定についての説明が行われました。

法人では生活介護事業部を中心に移動される利用者皆様の不安を和らげる対策を検討しています。各事業所とも定員を超える環境で支援を進めてきましたが、平成 27 年は、どの施設においても定員に若干のゆとりがある状態になります。



（渡邊）

## 生活介護のサービス内容統一について

平成 27 年 4 月より実施する通所バス地区割り制度に伴い一部のサービス内容を各施設で統一することとなりました。あいのわ福祉会、生活介護事業部が中心に利用者の方々が今まで利用していた施設と、新しく利用する施設で大きな違いがないようにサービスの水準の均等化を目的として日々検討しています。

対象施設は「足立あかしあ園、綾瀬あかしあ園、竹の塚あかしあ園のぞみ、舎人あかしあ園」の 4 施設となります。

グループ編成は 3 グループ編成が基本となり、利用者の方の希望や施設の特徴や活動の内容により細分化することもできます。

活動としてクラブ・サークル活動は施設ごとに呼び方は異なるかもしれませんが、外部より講師等導入し、個々の要望に近づけるように活動にバリエーションをつけていきたいと考えております。

作業においては受注作業、自主生産作業を行います。法人内の就労支援事業部が取りまとめを行う協同作業や就労に向けての取り組みなど新たに取入れる予定です。

次に行事については宿泊行事と施設祭行事ですが、宿泊行事については、平成 27 年度各施設で実施予定です。28 年度については見直しを行い旅行について方向性を含め検討をしていきます。施設祭については、27 年度は実施しませんが、「地域交流」を目的とした取り組みを行います。平成 28 年度に向けて新たな施設祭の検討をしていきます。

統一するサービスは入浴サービス、タイムケア、緊急 SOS と大きく 3 本の柱で構成しています。

まず初めに入浴サービスでは通所時間帯に希望者のみ、施設や近隣のグループホームなどを利用し入浴をすることが出来ます。職員が介助を行います。次にタイムケアでは、午前 8:00 から午後 7:00 の通所時間外に施設で過ごすことができます。このサービスは有料となります。最後に緊急 SOS では、ご家庭で緊急を要し、介助等困難となりショートステイなど社会資源も利用ができない状況の場合、一時的に有料で利用できます。尚、緊急 SOS については法人内の全施設サービス対象となります。

これらの内容を DVD にして 8 月 18 日足立区庁舎ホールにてご家族に、その後各対象施設に於て、利用者の方々に説明会を開いて観ていただきました。この DVD の内容は 10 月上旬にあいのわ福祉会のホームページでもご覧いただくことができますので、ご確認いただければと思います。今後は対象となる方への移行後の希望調査や施設見学会等を予定しております。

今回のバス地区割りに伴い、各施設の利用者の方から「当事者に伝えてほしい」という声が多々ありました。今後利用者の皆様には、より分かりやすく工夫しお伝えていきたいと考えております。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（金井）

## 平成 26 年度後援会総会報告

平成 26 年 6 月 17 日（火）  
足立あかしあ園会議室にて後援会総会が開催されました。25 年度事業報告・決算報告の審議・確認に続いて、26 年度役員に本年度も、秋山啓司会長が再任され、相談役に前・大谷田就労支援センター施設長の萩原邦男氏を迎え、26 年度事業計画・予算案が審議・承認されました。続いて、秋山会長より、25 年度、特に功労のあった個人・団体の方へ感謝状・記念品の贈呈が行われました。休憩をはさんで、記念講演「寺子屋から学ぶ現代に生かしたい集団学習」という演題で、江戸東京人文科学研究会 安藤義雄氏に講演をしていただきました。



記念講演「寺子屋から学ぶ現代に生かしたい集団学習」

江戸東京人文科学研究会 安藤義雄氏

現代の教育は「知識」の入力が中心で、人間教育を疎かにし、すべてが入試の予備

学習化している。「知」とは入力でインプット。しかし、「智識」は本人から発する能力で、いわば出力である。この出力を高める教育をしていたのが寺子屋である。「智」は、少年少女期の異年齢集団で学習し多様な人間関係から身に付けていった。そこで、寺子屋教育の実態を探り、現代に生かしてみようか。初めの頃の寺子屋は、有産階級の子弟が対象だったが、広く庶民に浸透したのは、八代将軍吉宗の享保年間。吉宗が千住辺の鷹狩の折、淵江領（足立区）島根村の医師吉田順庵を訪問した際、たまたま村の子供たちを集めて手習い中だった。その時に使っていた手本を見て、庶民教育の大切さに目覚め、翌年「六諭衍義大意」という民衆用の道徳教育書を一部ずつ江戸市中の手習い指南所へ下賜したことが始まりといえる。

寺子屋では、学年はなく、6 歳から 12 歳まで、2〜3 歳の年齢を連れ、向き合って座らせ、師匠の書いた手本を、自席で臨書して習う。分からないことは年上の生徒に教えるをう。年上も教えるからには復習してしっかり教えられるように学習する。学習が過程で進むのではなく、常に反復されることで基礎をしっかりと身につけ、先を急がない教育が学問を身につけさせた。規模は、足立区内での例では、明治五年の学制頒布時までに 41 の寺子屋があり、多いところは、男 66・女 55、少ないところは男 2 人で、師匠はすべて一人。教室は普通 2 部屋。一つは一般教室、もう一つの部屋は裁縫室で、女子は学科が 4 年で、残り 2 年は裁縫を習った。その他、授業時間、手習いの方法、教材等当時の様子を詳しくお話していただきました。現代教育と寺子屋教育を比較したときの「知」と「智」の違い。数十年前も前のことになりましたが、私の小学生の頃には、まだ寺子屋の教育が生かされていた学習場面もあったようないかなと思いがち。また、寺子屋の歴史に足立区が深く関わっていたこと、寺子屋学習に熱心だったこと、驚きもあり、貴重なお話を聞かせていただくことができました。

（丸山）

## 障がい児者福祉に30年 岸本氏に感謝状

前理事長岸本美恵子氏が近藤やよい区長より感謝状が贈られました。

あいのわ福祉会一同心からお祝いを申し上げます。

「足立区役所第二副区長室で7月8日、長年にわたり障がい児者の福祉向上に尽力した岸本美恵子氏に感謝状が贈られた。

岸本氏は、1984年5月に足立区肢体不自由児者父母の会長となり実態に合ったショートステイ事業などを立ち上げた。また1994年の社会福祉法人「足立あかしあ園」（現在の「あいのわ福祉会」）を設立、その後2代目理事長に就任した。会では現在8か所の施設運営などを担う。

父母の会の法人化から20年、節目となる今年3月には自身が元気なうちにと理事長を退任し、副理事長を務めていた鈴島妙子氏へと引き継いだ。

近藤やよい区長がねぎらいの言葉をかけると、岸本氏はこの30年を振り返り、「最初の子に障がいがあったことは自分にとっては衝撃で、その時の気持ちに比べれば何でもできると思った。その気持ちと、地域や周りの人たちの協力が支えてくれて、ここまでやってこれました」と答えた。

今後も休むことなく、竹の塚地域の民生児童推進委員やボランティアなど様々な活動をしていくそつだ。」

足立よみうり（7月18日号）より抜粋



「写真足立朝日様提供」

## 西保木間に「地域交流広場 あいのわ」がオープンしました。

あいのわ福祉会では、利用者さんの日中活動・地域交流の場として竹の塚あかしあ園の杜近郊の西保木間2丁目に「地域交流広場 あいのわ」をオープンしました。建物は、今年の6月まで高齢者のデイサービスの約半年利用されていた建物で、広いトイレや入浴設備、システムキッチンも装備されており延床面積は131㎡あります。

デイサービスの閉鎖によって空いた建物を法人が賃借したものです。利用者の皆さんが施設外で安心して集える場として、日中活動の場として、また入所利用者さんの生活のメリハリをつけていただくための施設外の場として活用する予定です。他にも研修・集会の場としても利用していきます。

（太田）



## 第38回全国身体障害者施設協議会研修大会報告

7月29日・30日に「全国身体障がい者施設協議会『研究大会』」がパシフィコ横浜で開かれました。今回の大会テーマは「障がい者権利条約批准後の支援について考えよう」と言う事で、行政説明や記念講演、全国で取組まれている支援内容の「実践報告会」や「研究発表会」が執り行われました。

あいのわ福祉会からは、大会スタッフとして数名の職員と、相談役と正副理事長を始め各施設の職員が参加しました。開会式では、永年勤続表彰の被表彰者として、竹の塚あかしあのだの杜の三瓶主任が選出され、約100名の代表として謝辞を述べました。（以下 謝辞文抜粋）

「今回、このように栄えある表彰をお受けするにあたり、利用者の皆様をはじめ、諸先輩方や同僚等、多くの方々に支えられてきたこと、そして、大変やりがいのある仕事を担わせて頂ける経営陣と上司に心から感謝しております。（中略）今後は誰もが、その方が選んだ場所で、その方らしい生活を営む権利をもっているということを、後に続く人材にもしっかりと伝えながら、地域から求められる施設づくりに取り組みつつ、より一層のサービス向上に努めていきたいと思います。」

1日目は、厚生労働省の障がい福祉課長より『障がい保健福祉施策をめぐる動向』



についての行政説明を始め、全国身体障がい者施設協議会会長より『これからの障がい者支援施設の進むべき道と身障協の取り組み』や元内閣府障がい者制度改革担当室長からの『障がい者権利条約から見た施設のあり方を考える』等の講演がありました。

夜には情報交換会も開かれ、800人もの参加者が所属県を超え、同じ障がい者施設従事者としての現状や課題などを交換し合いました。

2日目は、各施設での取組みや、研究を報告・発表する場として、40施設以上の職員による報告と発表がありました。「重度・病弱化する利用者の実態把握方法と展開」「適切なポジショニングによりQOLが向上した利用者に行った支援の実践」等、支援現場に則した内容が報告・発表されていました。いずれも支援現場で創意工夫した実践報告や、支援現場で実際に行った研究発表など、利用者の方に寄添った支援にする為の努力や熱意が伝わる内容でした。

大会参加者1,500名という大きな大会でしたが、支援現場では、どの施設でも同様の課題や問題を抱えている事の再認識や、それに向かつて、一人一人が創意工夫をしている様子が垣間見られ、改めて自施設以外での取組みを見聞する事の重要性と意義を感じた大会でした。（市原）



投稿欄（俳句・川柳など募集中です）

つり橋の映りし洲の山女釣り

秋山 啓司

▼この一句

「日々悔を残さず生きむ秋の蟬」 松山 智美

蟬の種類は約30種と多い。幼虫は土の中に数年から10年以上もいるという。成虫としての地上生活は僅か1〜2週間で終わる。この世に生を受け、たとえ儚く短い命でも一日一日を大切に、悔を残さないよう精一杯、生きようとしているのである。（秋山）

後援会だより

（平成26年5月〜8月） 敬称略、順不同

特別会員（101万円）

峰岸茂隆、土屋佐知子、秋山啓司、秋山孝広、山野正雄、青井三丁目町会、石鍋一郎、中田貢弘、青木弘治、日商岩井綾瀬M自治会、神代和幸、肥後留太郎、大井勉、トプラ販売（株）、大谷勝（株）、サンベルクス、青井三丁目中央自治会、鈴木良雄・恵子（株）、光和エンジニアリング、六木診療所・山下俊樹（有）、A1フラッグ（株）、マルゼン、堀江日出子、渡邊喜一郎、鈴島宏治、足立成和信用金庫・青井支店、神明福祉園・父母の会（30口）、神明福祉作業所・保護者会（10口）、オハナ保護者会（10口）、谷在家福祉園・家族会（5口）

団体会員（105千円）

須賀賢一、金成常子、渡辺杏子、今井澄子、渡邊浩（株）、ソーリン（株）、カナイ、青井4丁目住宅自治会、久保田博、青井第一自治会、平田敏光、青井5丁目住宅自治会、兵和町会・関口保幸、足立西加平郵便局、青井4丁目第4自治会

一般会員（103千円〜5千円）

秋山智子、平沢清壽、中村富美子、小林則子、藤巻映一、谷古宇彰、大野守幸、重田久美子、岩澤明美、田林恵子、西野勇雄（株）、サンベルクス、鈴木秀夫、有馬妙子、古田士信勝、中川美知子、若林登紀子、佐々木直幸、羽子田はるみ、嶋崎正教、小川弘子、西村文雄、吉沢国夫、青木昭治、田中誠、伊藤定雄、萩原邦男、比留間ちづ子、大谷田就労支援センター保護者会（7口）

寄付者

財団法人啓福社ネットワーク・秋山啓司、野沢琴江、藤田千恵子（株）、カナイ、小金井寛、佐藤トヨ子、小川弘子、渡邊和彦、西村文雄、建設工業（株）、佐々木継男、服部隆男、青井地区少年団体協議会、原齒科医院、くるみ会・佐藤勇、橋本幸子

●後援会加入のおねがい●

当法人の事業及び運営施設の発展を願い、財政的な援助をしていくことを主として後援会活動を行っております。一人でも多くの方々にご賛同いただき、後援会への加入をご支援をお願い致します。申し込み・お問合せは後援会事務局 電話（3849）1188まで



Ainowa Event Information

●第19回ふれあいフェスティバル

開催日	平成26年10月5日（日）
時 間	10:00-14:20
場 所	足立あかしあ園
テーマ	今回は、「足立の絆」をテーマに準備を進めています。当日はたくさんの模擬店や楽しいアトラクション団体の出演など、たくさん予定しております。ぜひお越しください。「皆さん！一緒に楽しみ絆を深めましょう!!!」

●第43回タートルマラソン国際大会 in 足立  
兼第17回バリアフリータートルマラソン大会

開催日	平成26年10月19日（日）
時 間	8:30-14:00
場 所	荒川河川敷「虹の広場」
テーマ	法人後援会で、豚汁・コロッケ・飲料他模擬店出店します。又、法人施設からエントリーした利用者さん、職員が完走目指して走ります。応援よろしくをお願いします。

●足立区大谷田障がい福祉施設 秋祭り

開催日	平成26年10月4日（土）、5日（日）
時 間	4日宵宮18:00- 5日本宮10:00-
場 所	大谷田障がい福祉施設
テーマ	大谷田の町会の祭りに参加しています。施設の中庭をお貸ししての前夜祭と5日は地域の方々と一緒に御神輿を担いで、町内を練り歩きます。担ぎ手も大募集中です。

●神明障がい福祉施設

開催日	平成26年11月9日（日）
時 間	10:00-14:00
場 所	神明障がい福祉施設 神明南 2-6-18
テーマ	「知ってほしい東北、これからも復興支援!! 私たちは今」ほたて焼き、きりたんぽをはじめ、東北の物産品を用意してお待ちしております。

編集後記

この夏は異常な天候でしたが、皆様どのように過ごされたでしょうか。我が家では7月のうちに割安パックで海外へ。外国にいったみたいという息子の希望を聞き入れて一大決心！旅行会社は何度も足を運び、障がいの程度を話し、宿泊先のホテルの設備、旅程、交通手段など細かく打ち合わせて行ってきました。車椅子を使わないけれど歩行が覚束ないという微妙な障がい者である息子に声をかけてくださる方、手を貸してくださいさる方、バスなどの乗降、見学場所の歩行に汗だくの親子に皆さん優しくいただきました。多くの日本人旅行者が現地の方にハロー、サンキューと挨拶しているのに、息子「俺は日本人！日本語で通す」と、こんなにちは、ありがとで済ませていました。また外国というところに行きたいそうです……。秋は天候に恵まれるとよいですね。（斑目）